

生ごみリサイクルシステムの構築に向けた組織の設置について (案)

1 趣旨

廃棄物の発生抑制、循環資源の利用、適正処分の実施など環境への負荷が少ない持続的な発展が可能となる循環型社会の形成を目指し、生ごみを焼却処理から資源として活用するリサイクルシステムの構築に向けて、市民協働による調査・研究組織を設置する。

2 基本姿勢

(1) コストと効果のバランス

リサイクルに係る経済的なコストとともに、ごみ減量による埋立量の削減、資源の循環利用など社会全体への効果とのバランスを考慮する。

(2) 資源の有効利用

人口減少と高齢化が進展する社会構造の変化を踏まえた持続可能な事業となるよう、民間施設の活用を含め、飼料化、堆肥化、バイオガス化など、地域の中で生ごみが最も有効に利用できる手法を検討する。

3 検討組織の概要

(1) 名称：「(仮称)生ごみリサイクル研究委員会」(10人以内)

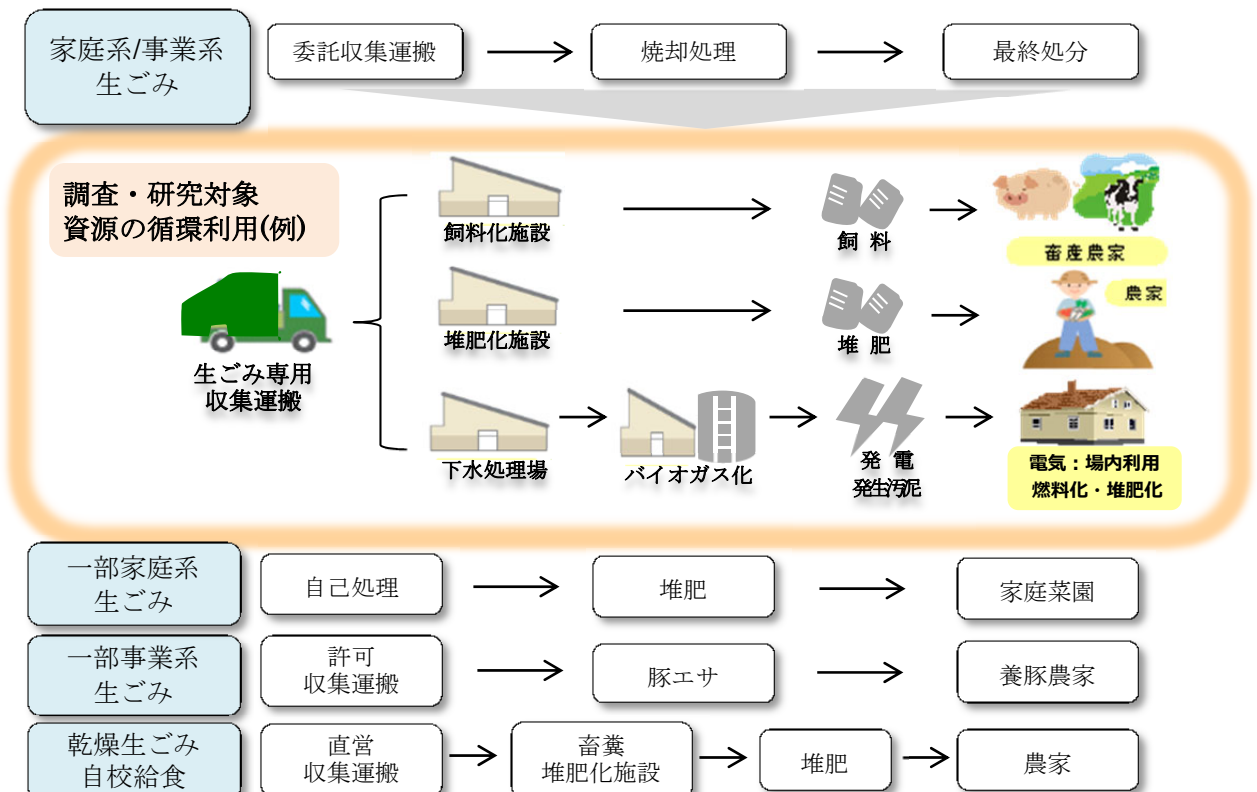
ごみ減量アドバイザー、学識経験のある者、事業者、自治会代表者、公募者等

(2) 任務：生ごみリサイクルシステムの構想案を策定

4 構想案の扱い

廃棄物処理審議会に諮問し、市のごみ処理基本計画を改定し、計画に従い生ごみリサイクルの施策を展開する。

5 生ごみリサイクルのフロー



6 検討委員会で出されたごみ減量・再資源化に関する意見・要望の流れ

